

奈良市制施行 120 周年記念
奈良市美術館 リニューアルオープン記念展覧会企画（案）
（仮）奈良とベルサイユ～悠久の美を求めて～
（「奈良百景」と「ベルサイユ百景」作品から）

奈良市は平成 30 年に市制施行 120 周年を迎える。これを記念すると共に、平成 30 年 4 月 24 日にリニューアルオープンをする奈良市美術館のこけら落としの事業として、奈良市と姉妹都市ベルサイユの美しい景観を描いた「奈良百景」と「ベルサイユ百景」の作品を展示し、二つの都市の持つ普遍的な美を探究するとともに、その魅力を発信する。

「奈良百景」（前期展示）

奈良市は平成 10 年に市制 100 周年を迎えるに当たり、その記念事業として、「奈良百景」事業に取り組んだ。市民のアンケートをもとに、先人が守り伝えてきた世界に誇る建造物や風俗・風景を絵画に描き留めようと、奈良市美術家協会及び奈良県美術人協会の画家に依頼し、平成 5 年度から 4 年間にわたって制作が進められ、平成 10 年度に 100 点の作品の完成を見ることができた。（平成 11 年にそごう美術館でお披露目の「奈良百景展」を開催し、奈良市美術館主催では、平成 16 年と 23 年に「奈良百景展」を行っている。作品は現在奈良市が所有、奈良市美術館の館蔵品となっている。）

これらの作品はそれが描かれた時と空間を切り取ったものであり、以来 20 年が経過し、描かれた風景の中には今ではもう失われた場所、また、変わりつつある場所もある。美術鑑賞とともに作品を見ながらそれぞれの場所に思いを馳せていただき、時の流れを感じていただく場としたい。

「ベルサイユ百景」（後期展示）

「ベルサイユ百景」は日本人画家大石良太氏がベルサイユの美しさに魅せられて、その地に移り住み、長年街に出て描き続けた絵画である。ベルサイユも奈良と同じく、古都としての魅力を持ち続けている街であり、その美しさを後世に伝えようとたゆまぬ努力を続けてきた先人の思いを感じながら、作品を見ていただきたい。

大石氏はベルサイユを拠点に長年制作活動を続けられ、その間奈良市との姉妹都市交流の架け橋として尽力されてきた。文化の違いはあれ、歴史を重んじ、美しい景観を遺そうとする姿には共通の思いがある。それを、日本人の目で見ると絵画に描き遺そうと「ベルサイユ百景」として 100 点の作品を制作、平成 28 年にベルサイユ市主催で展覧会を開催されている。大石氏の絵画を通じて、ベルサイユの魅力を味わっていただくとともに、普遍的な美を受け継いでいくことの大切さを共有して欲しい。（なお、大石氏は長年の芸術活動に対し 11 月 9 日にフランス文化勲章シュバリエを受章された。）

《開催概要》

■期間

前期「奈良百景展」

平成 30 年 4 月 24 日（火）～5 月 6 日（日）

後期「ベルサイユ百景展」

平成 30 年 5 月 11 日（金）～5 月 27 日（日）

※月・祝日の翌日を除く

■内容 奈良百景展示：100 点

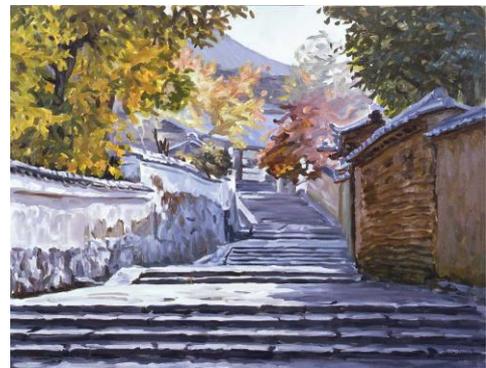
ベルサイユ百景展示：大石良太氏の作品 約 100 点

■入場料 無料

■目標入場者数 10,000 人

■ターゲット

- ①奈良百景をご存知の方で、もう一度見たいと思っておられる方
- ②奈良とベルサイユの姉妹都市交流に関心のある方
- ③奈良市とベルサイユ市の美しい景観に興味のある方
- ④絵画（特に風景画）に興味のある方
- ⑤美術館のフロアを訪れた方の中で、展覧会の内容に興味を持たれた方



参道の秋（二月堂への石段）（辰巳文一氏作品）



ベルサイユの市街電車（大石良太氏作品）

《関連プログラム》

■ギャラリートーク

オープン初日（4 月 24 日）奈良百景の作家によるギャラリートークを実施。

■大石氏によるワークショップ

期間中、絵の具の作り方、キャンパスの貼り方などのワークショップを実施。

二つの絵画群は、いずれも画家がそれぞれの地に対する愛惜と憧憬の情を表現したものである。奈良とベルサイユ、それぞれの地で刹那の美と向き合う画家の姿に思いを馳せながら、様々な表現方法を鑑賞することができる本展は、地域の美術文化の拠点である奈良市美術館のリニューアルオープンに相応しい展覧会になり得ると考える。